

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	eラーニングを用いたビジネススキル・ヒューマンスキル強化による再チャレンジ支援プログラム		
法人名	学校法人中央情報学園		
学校名	中央情報専門学校		
代表者	理事長 岡本 比呂志	担当者 連絡先	副校長 溝上 太平 TEL 048(474)6651
<p>1. 事業の概要</p> <p>多くの若年者にとって修得すべきスキルとしての優先度が高く、eラーニングコンテンツのラインナップが充実している4つのスキル領域を対象とした教育プログラムを策定・実施し、その教育効果についての実証的な確認を行った。また、調査結果より得られた情報を元に、ヒューマンスキル・ビジネススキルに関するコンテンツ検索を可能とするポータルサイトの開発も行った。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>ビジネススキル・ヒューマンスキルに関する広範な学習領域のeラーニングコンテンツを5つの分類に整理し、その情報を元に、学習者に自分の望むコンテンツ検索を容易にし、自己学習の促進を支援するポータルサイトを制作した。また、若年者に対してeラーニングによるビジネススキル・ヒューマンスキル学習を含む教育プログラム実施し、教育効果の確認を行った。 これらの事業活動の結果、事業目的である若年者へのビジネススキル・ヒューマンスキル強化支援を達成した。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>教育プログラムは、多くの若年者にとって修得すべきスキルとしての優先度が高い「情報モラル」「コミュニケーション」「ビジネスマナー」「社会常識」から構成した。実施には社会人研修で実績を有するNTTラーニングシステムズ社の商用コンテンツとニンテンドーDSを利用し、講師により進捗管理と支援が行われた。教育プログラムの実施の結果、ビジネススキル・ヒューマンスキルの知識向上を確認することができた。 さらに本事業では、広範なビジネススキル・ヒューマンスキルの学習領域を5つの分野に整理した調査結果を元に、コンテンツの検索を可能とするポータルサイトの制作も行った。</p> <p>③今後の活用</p> <p>ビジネススキル・ヒューマンスキルの4つのスキルについての教育プログラムの実施結果より、多くの知見が得られた。今後は、この結果を元に、教育プログラムのブラッシュアップを進め、より効果的なeラーニングによる若年者へのビジネススキル・ヒューマンスキル強化支援を行う考えである。また、本事業で制作したポータルサイトについても順次情報を追加し、公開を予定している。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p>			

本事業結果より、今後の課題としては以下の3点が挙げられる。

1. 良質なコンテンツの調達
学習効果を高めるためには、受講者に相応しいレベルの良質なコンテンツの制作や選定が重要となる。
2. 確実な実施
受講者が確実に学習項目を修了できるように、学習進捗管理やフォローが必要となる。
3. 受講者のeラーニングへの慣れ
効果的なeラーニングの活用のためにも、受講者側のeラーニングに対する慣熟度や姿勢についても考慮が求められる。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

1. 調査のねらい

- ・ビジネススキル・ヒューマンスキルに関する広範な学習領域のeラーニングコンテンツの状況の整理とコンテンツの分類およびコンテンツにおける特徴的な機能の調査。
- ・企業の先進的なeラーニング活用事例に関する情報の収集と整理。

2. 対象

- ・ビジネススキル・ヒューマンスキル系eラーニングコンテンツ229例
- ・先進的なeラーニング活用を行っている企業3社

3. 方法

- ・Web情報の調査およびコンテンツの実施
- ・企業担当者による講演と委員とのディスカッション

4. 調査項目

- ・ビジネススキル・ヒューマンスキル系コンテンツの整理と分類、およびその特徴的な機能の調査。
- ・企業や大学でのeラーニング活用事例、モバイルを中心とした今後のeラーニング発展の可能性。

5. 調査結果

- ・調査対象としたコンテンツを5つのスキルへ分類し整理を行った。
- ・企業や大学の活用事例から、専門学校におけるeラーニング活用での検討点を抽出した。
- ・モバイル型eラーニングの可能性についての情報の整理と検討を行った。

②カリキュラムの開発

本事業の教育プログラムの内容は、多くの若年者にとって強化の必要性が高く、eラーニングコンテンツのラインナップが充実している領域に焦点を当てて構成した。

具体的には、「情報モラル」「コミュニケーション」「ビジネスマナー」「社会常識」の4つのスキルをテーマとし、授業時間を活用する上での時間配分に考慮するとともに、適正な学習順序を検討しながら内容を策定した。実施に際しては、前者3スキルについては、社会人向けに多くの実績を有しているNTTラーニングシステムズ社の商用コンテンツを利用し、「社会常識」についてはニンテンドーDSを利用し、それぞれ講師が学習支援と進捗管理を実施するものとした。

③実証講座

1. テーマ

- ・eラーニングによるビジネススキル・ヒューマンスキル強化支援

2. 期間

- ・平成20年1月28日～2月15日(最長日数)

3. 受講者属性

- ・専門学校社会人学生および一般学生

4. 受講者数

- ・65名(延べ人数)

5. 場所

- ・教室内および自宅など

6. 受講者の反応

・実施した学習項目の理解度は高く、効果を認める意見が多かった。一方で、同様のeラーニングの継続意欲については意見が分散し、受講者がeラーニングのメリット・デメリットの双方を認識していることがうかがえた。

④その他

本事業で行った、ビジネススキル・ヒューマンスキル系コンテンツの整理と、その情報を元にしたポータルサイトの制作は、スキル強化を目指す若年者はもとより学習情報を求める人々の便宜に広く寄与し得るものと言える。

また、企業内での活用が主流であるビジネススキル・ヒューマンスキル系コンテンツの実施を伴う教育プログラムでは、それらが若年者に対しても教育効果がある点が確認された。また、教育プログラム実施結果からは今後の活用についての課題も明確とすることができた。さらに、本事業では、パソコンを利用したeラーニングの他に、学習端末としてニンテンドーDSも利用した。このような学習端末の利用も本事業の特色であり、モバイル型eラーニングの可能性を考える上でも貴重な情報も得ることができた。